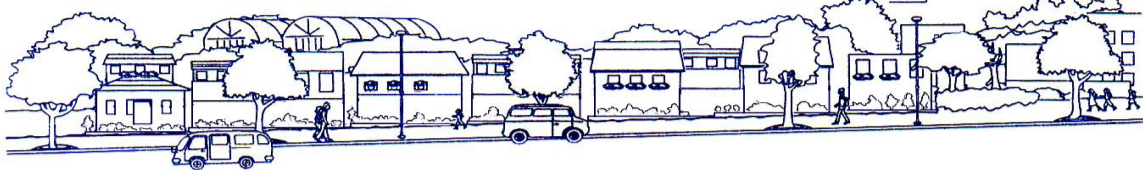


# 江戸川沿川

# 北小岩



No.9

2007/12/20  
江戸川区土木部  
沿川まちづくり課  
推進第一係  
Tel5662-6735

## 皆さまの疑問にお答えします！ ～噂の真実・特集号～

日ごろより区政にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

今回のまちづくりニュースでは、スーパー堤防とまちづくり事業に関するお問い合わせについて、お答えしたいと思います。

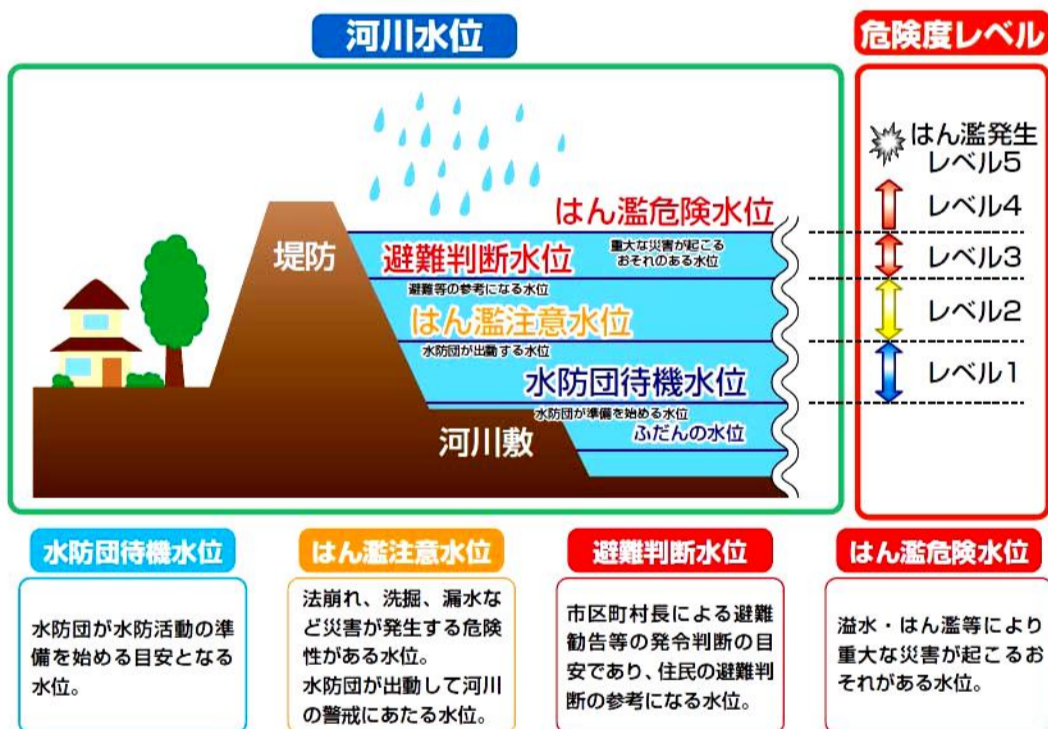
地元の方から、「江戸川の堤防は絶対に安全だと聞いた」「北小岩の地盤では液状化は起こらない」「補償金が出ないという噂がある」など、多くのお問い合わせを頂いております。今回のニュースでは、区として正しい情報をお伝えすることにより、皆さまの不安がすこしでも解消されればと思います。

### 台風9号…多摩川では昭和57年以来の大洪水に！ 一方、江戸川では…！？

9月7日の台風9号は、強い勢力を保ったまま、ゆっくりとした速度で移動したため、各地で大雨や暴風が長く続きました。

江戸川の上中流付近でははんらん注意水位を超えました。

はんらん注意水位とは、法崩れ、洗掘、漏水（浸透）などの災害の起こる危険性がある水位です。



北小岩の様子（河川敷管理事務所付近）

河川水位が高い状態が長時間続くと、浸透により、堤防の中や基礎地盤に弱い部分がある場合、水の通り道が形成されます。この通り道が、徐々に拡大すると水とともに堤防の土が流れ出す、漏水（浸透）により堤防が決壊する原因となります。（決壊の原因には浸透・越水・地震があります。）

江戸川の堤防は、昔から何度も改修を行っており、堤防の安全性にはバラツキがあります。平成10年9月の洪水時でも、江戸川沿川で堤防の漏水や法崩れが起きています。



# 江戸川の堤防はほんとうに安全？

## ●度重なる洪水の歴史——小岩でも被害がありました

江戸川には、いくつかの洪水の記録がありますが、主なものを上げてみます。

明治29年の洪水は、「9月の初めには豪雨となり、12日には埼玉県北葛飾郡三輪野江村地先の江戸川堤が決壊した。この時の浸水地域は本区の半分に及び各村における被災戸数と被災者数は、小岩村300戸3497人…」と記録されています。

昭和22年9月のカスリーン台風による洪水は、利根川・江戸川水系で最大の被害をもたらしました。その時には、利根川中流部、栗橋上流の現大利根町の堤防が壊れ、東京、埼玉の約4.9万ヘクタールを水が覆い、尊い人命と多くの財産を奪いました。

昭和24年のキティ台風では、台風と満潮が重なり、「江戸川は異常な高潮のため、河口各町村で海岸堤防及び江戸川堤防が決壊し大きな被害があった。」との資料もあります。



2006年7月 大雨後の京成鉄橋付



## ●昭和40年代の堤防改修で安全になった？

地元では「昭和40年の堤防改修で、2倍のかさ上げと接続ブロックという当時の最新技術が使われ、地震に対しても安全になった」という話があります。

しかし、堤防改修工事で使用される「接続ブロック」は、法面が崩れにくくするもので、堤防が地震や液状化現象に強くなる訳ではありません。

「従来の河川堤防は、土を盛土で造るのが一般的で、特別な場合を除けば、地震に対する安全性は考慮されなかった」とされていて、北小岩だけが関東大震災でも大丈夫と言うことはありません。

また、スーパー堤防に代わる工法として、農村工学研究所等が開発した「ヒレ付き土のう」を主張する方もいるようですが、この土のう工法は、老朽化したため池を整備するために開発されたもので、一級河川での長期的な堤防強化を行うものではなく、当然、恒久的な地域の安全を確保するスーパー堤防に代わるものにはなりません。

## ●怖いのは浸透による破壊

一面にも書きましたが、河川の水位が高い状態が長時間続くと、この水が堤防の中にしみ込み、堤防の中を伝って市街地側へと水の通り道ができ、水と共に堤防の土が流れ出し、堤防が崩れる原因となります。

国土交通省が行った浸透に対する安全性の調査結果では、江戸川では6割が浸透に対する安全性不足区間と報告されており、その中には北小岩地区も含まれています。

また、北小岩地区は国土交通省により、重要水防箇所として位置付けられており、河口より15km地点（正真寺付近）の北側500mは余裕高不足、13km地点（総武線鉄橋南側）から15km地点は堤防断面不足が指摘されています。さらに、総武線鉄橋、市川橋、京成江戸川鉄橋も余裕高不足を指摘されています。





# 地球温暖化で江戸川区はどうなる！？

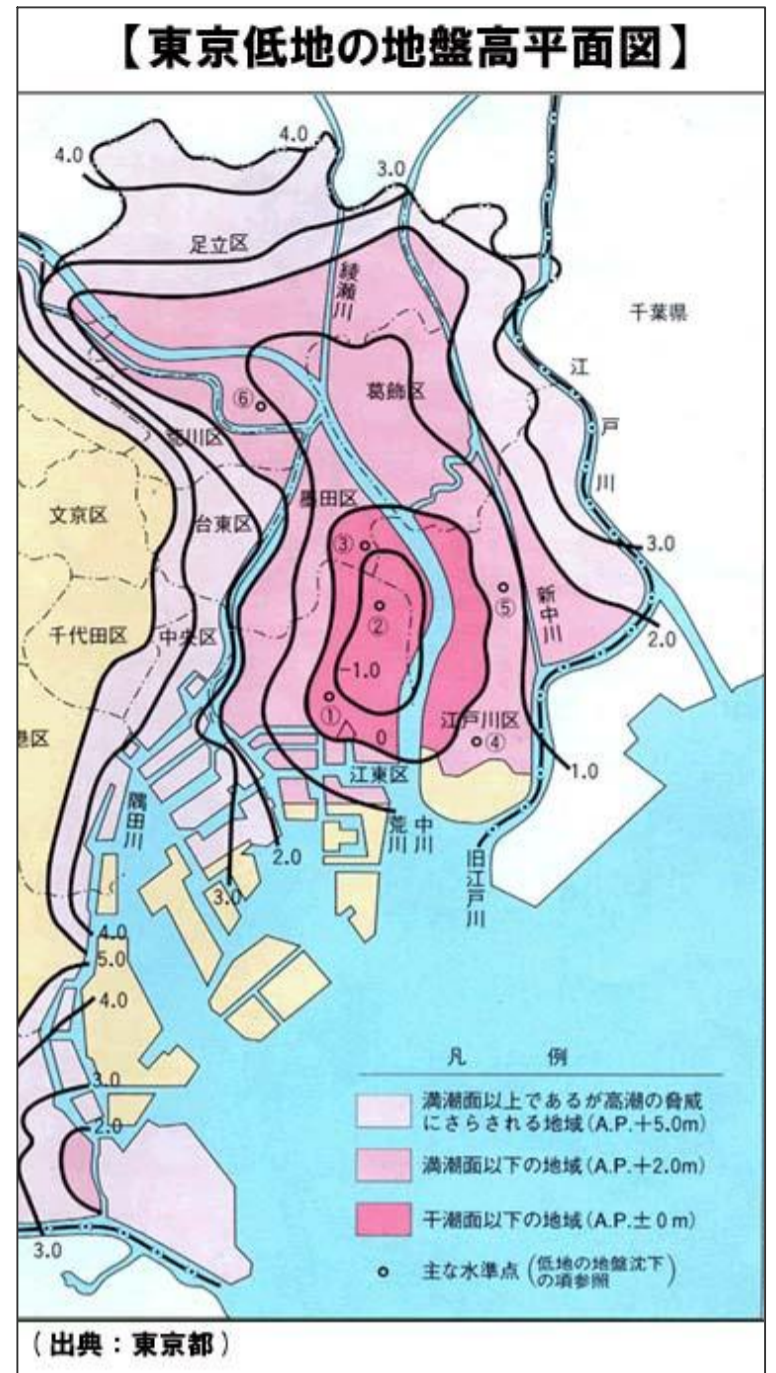
「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の評価報告からわかるように、この温暖化がもたらすものとして、熱帯低気圧の強度が強くなることや、海水面の上昇等が懸念されています。

特に、昨今の降雨状況では、従来では予想していない激しい雨が降ることがあります。

江戸川区は地盤の約7割が、満潮時には海面下となります。もし江戸川区が予測を超える洪水や高潮に襲われた場合、計画的に整備したごく一部の区域を除いて水に浸ってしまう、洗面器の底に似た形状の土地なのです。

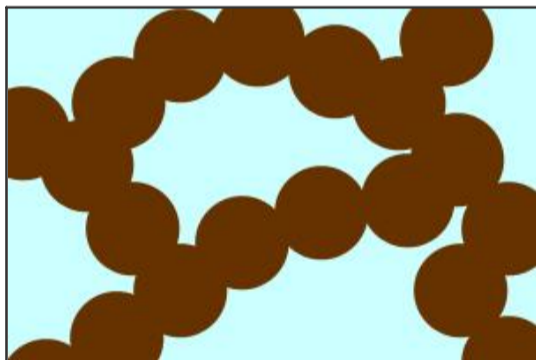
温暖化による海面上昇という超長期的な対応よりも、現在の段階で異常気象などによる想定を超える水害に対して堤防が壊れて壊滅的な被害を受けることのない安全なまちをつくるのが、区の考えです。

このことから、67万区民の生命・財産を守るために、予測を超える洪水や高潮・大地震が発生しても決壊しないスーパー堤防整備を計画的に進め、起こりうる自然災害に備える必要から、平成18年12月「江戸川区スーパー堤防整備方針を策定しました。（概要版については、別紙配布資料を参照してください。）

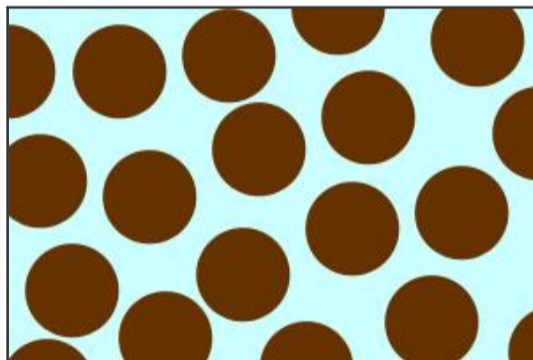


# 北小岩地区は地震でも液状化しない??

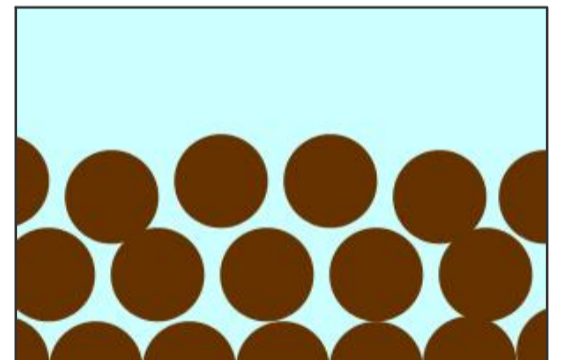
## ●液状化現象とは……



①一般に、地盤は土粒子と水と空気で出来ています。砂粒がお互にくっついて、その間に水と空気がある状態です。



②地盤が地震でゆさぶられると、砂の粒同士がはなれて、水に浮いた状態になります。



③液状化でバラバラになった砂の粒が沈んで、地面に水が出てきます。

液状化現象とは、地震によって地盤が一時的に液体化し泥水のようなになるため、建物やライフラインに被害をもたらす現象です。液状化発生予測範囲については、皆様には、平成17年度、18年度の意見交換会等で、東京都土木研究所（現・土木技術センター）作成の液状化予想図を説明し、資料として配布しているものです。

液状化予測図では、江戸川沿川では「液状化が発生しやすい地域」が多く、特に北小岩地区は市街地にも「液状化が発生しやすい地域」が広がっています。

液状化は、土地利用だけで判断するものではなく、地質調査（ボーリング調査）により砂質層の有無、砂層の厚さ、地下水位などによる工学的判断により判定します。

スーパー堤防とまちづくり事業は、地質調査の結果、液状化が予測される場合、深いところの地盤から頑丈な地盤にするため、改良工事を行います。

# 移転補償が出ない！？ 噂に気をつけて！



## ・正しい補償率

北小岩地区では、「補償」について「築48年の建物は補償率20%」といった誤った情報がながれています。

補償率は、建築費の構成比が固定ではなく物価によって左右されるため、その時に応じて変わりますが、江戸川区では、今までの説明の中で、建物の経過年数が10年で90%強、20年で80%強、30年で70%程度、40年で60%程度というご説明をしています。(一般的な木造住宅の場合)

補償についてご質問がある場合は、区にご連絡ください。ご説明に伺います。

## ・二重ローンで生活苦!?

住宅ローンについては、補償金で現在の建物のローンを支払い、新たな家を再建するときに新たなローンを組んでいただくというのが一般的な例です。従前の家のローンの支払いを継続しながら、新しい家のローンも支払う、いわゆる「二重ローン」は、一般的なお宅の場合、まったく起こらないのが現状です。

## ・江戸川区では区の面積の1/3で区画整理を行ってきました

今までの区で施行した土地区画整理事業においても同様の補償を行ない、地元の方との合意形成のもと、区の面積の1/3で事業を行ってきました。事業の終了した箇所では、良好な住環境のもと、昔からの関係を活かしつつ、新しいまちとしてのコミュニティが育まれています。

## ～北小岩江戸川町会18班 活動報告～

### 移転補償説明会&共同建替住宅懇談会を開催しました！

9月14日(金)に、小岩アーバンプラザ集会室にて、移転補償説明会を開催しました。今回の説明会は、地区内にお住まいの方から、移転補償についてもう一度詳しく聞きたいという要望があり、開催させていただきました。

当日はお忙しい中、50人近くの方にお集まりいただき、移転補償の内容や他地区の事例について説明させていただきました。

今回の移転補償の事例では、一之江駅西部地区の戸建て住宅、瑞江駅北部地区での作業所付き住宅のケースを説明させていただきました。



移転補償説明会 状況



共同建替住宅懇談会 状況

9月29日(土)に開催しました共同建替住宅懇談会では、住宅再建の方法のひとつとして共同化住宅について考えてみようという趣旨のもと、共同建替に関心のある方、20名ほどにお集まりいただきました。

こちらの懇談会では引き続き会を重ねて、専門家による話を聞いたり、他地区の共同化住宅の見学に行ったりした後に、実際に建物を建てた際の建築費用の試算まで行う予定です。

★ご意見・ご質問などありましたら、お気軽にお問い合わせください。

えんせん

沿川まちづくり課推進第一係(第二庁舎4F)まで TEL5662-6735

【URL】 [http://www.city.edogawa.tokyo.jp/sec\\_ensen/index.html](http://www.city.edogawa.tokyo.jp/sec_ensen/index.html)